

聖書日課 『からし種』 2022.6.5-6.12

<p>6月5日 (日) ヘブライ 7章</p>	<p>「この方は常に生きていて、人々のために執り成しておられるので、ご自分を通して神に近づく人たちを、完全に救うことがおできになります」(25節)。私たちは自分の力で自らを救うことができない。不安や恐れ、憤りに支配され、善をなそうとして悲しみをつくりだしてしまふ。その私たちのために祈り、執り成し続けてくださる方に立ち帰り、共に礼拝をささげよう。</p>
<p>6日 (月) ヘブライ 8章</p>	<p>「しかし、今、わたしたちの大祭司(イエス・キリスト)は、それよりはるかに優れた務めを得て…更にまさった契約の仲介者になられた」(6節)。旧い契約は「囲いの中の羊」を祝福するもの。新しい契約は「囲いに入っていない羊」をも探し出し、見つけて喜んでいく道。迷い出し、神のもとに帰れなくなった「わたし」のために十字架の道を歩まれた主を覚えて。</p>
<p>7日 (火) ヘブライ 9章</p>	<p>「キリストは…恵みの大祭司としておいでになったのです」(11節)、「ただ一度聖所に入って永遠の贖いを成し遂げられたのです」(12節)。旧約の大祭司は毎日献げものを携えて聖所に入る必要があったが、真の大祭司である主イエスは天の聖所に、ただ一度、ご自身を献げられた。私たちが永遠の贖いを受けた者として、天の希望を見上げて生きるために。</p>
<p>8日 (水) ヘブライ 10章</p>	<p>「イエスは、垂れ幕、つまり、御自分の肉を通して、新しい生きた道をわたしたちのために開いてくださったのです」(20節)。「新しい生きた道」は独りぼっちで歩む道ではなく、主イエスと共に歩む道。悲しみや苦しみを一人で背負う道ではなく、主イエスに委ね、自分にできる働きを主にささげていく道。「新しい生きた道」に招き入れられた感謝をささげていこう。</p>

メール配信登録メール senfkorn.obc@gmail.com

大井バプテスト教会

メール配信希望の方は名前とアドレスを明記の上、上記のアドレスまで

聖書日課 『からし種』 2022.6.5-6.12

<p>9日 (木) ヘブライ 11章</p>	<p>「アベルは死にましたが、信仰によってまだ語っています」(4節)。「アベル」は「はかない」という意味。人間は最期は必ず死を迎えて土のチリに帰っていく。形あるものは何も残らない。けれど、その信仰と祈りと賛美は神の前に覚えられ、教会の交わりの中に生き続けていく。目に見えるものではなく、見えないものに目を注ぎつつ、神の慈しみを賛美していこう。</p>
<p>10日 (金) ヘブライ 12章</p>	<p>「このように、わたしたちは揺り動かされることのない御国を受けているのですから、感謝しよう。感謝の念をもって、畏れ敬いながら、神に喜ばれるように仕えていこう」(28節)。権力者の野望がぶつかり合い、弱い立場の人が犠牲になる世界の現実に、虚しさや悲しみがあふれてくる。その中でなお、主イエスが約束された「御国」が地になることを祈っていこう。</p>
<p>11日 (土) ヘブライ 13章</p>	<p>「兄弟としていつも愛し合いなさい。旅人をもてなすことを忘れてはいけません。そうすることで、ある人たちは、気づかずに天使をもてなしました」(1-2節)。「天使」は背中に羽が生えているわけではない。神が遣わしたもう「天使」は、今日、出会う隣人の中にいる。やわらかで、やさしい心を主に求めつつ、主日の前の準備の日を大切に過ごしたい。</p>
<p>12日 (日) ヤコブ 1章</p>	<p>「だから、あらゆる汚れや溢れるほどの悪を素直に捨て去り、心に植え付けられた御言葉を受け入れなさい。この御言葉は、あなたがたの魂を救うことができます」(21節)。試練に耐えること、ただしくあり続けることがいかに難しいことか。それでも、日々与えられる御言葉によって、生かされ、励まされている。主の言葉に耕されてこの週も歩みたい</p>